

2008年(平成20年)8月27日(水曜日)日刊

公共事業を中心に建設投資が減少する厳しい経営環境の中で新事業や技術開発に取り組む建設会社と、その支援者による「第3回建設トップランナーフォーラム」が、7月24日～25日の2日間、港区芝の建築会館で開かれた。全国から2日間で延べ約600人が参加、40社が事例を発表した。各社の取り組みを紹介する。取材はフォーラムを後援した「地方建設記者の会」（建通新聞社など18社が参加）が当たった。きょうから12回にわたり連載する。掲載は毎週水曜日と金曜日。

## ●全体フォーラム事例発表 I

■全スタッフが理...  
「脱公共工事」  
第一建設（宮崎市）  
003年6月に12...  
ツで「ディサー...  
ターはまゆう」を開...  
半年間は利用者が集...

解 し  
日本文化  
07年10月には、利用者が  
立上りをスロー ら要望が高かつた宿泊施設  
ては、2 人ホームはまゆう」として  
人のスタ 事業を拡大した。通所介護  
ビスセン と有料老人ホームの2施設  
設した。を運営し、稼働率は現在約  
集まらな 90%に達している。

森ヒバの端材を活用し、香りやアート、ビー性皮膚炎などの効能を生かせないか考えた。そして、青森ヒバの携による、地域資源を活用した商品開発事業として奥川をつくるアイデアが生まれ、ヒバ商品の開発がスタートした。

■連携により事業推進

地元生産農家などとの連携による、地域資源を活用した商品開発事業として奥川田建設（仙台市）は、ワサビ栽培事業に乗り出した。

「デイサービスセン  
(第一建設)

していただき  
1997年に緑化工法か  
ら実証実験を開始。現在ま  
でに環境緑化工法・環境土  
木工法・水環境工法として  
18の工法を提案している。

原裕社長は「長期的な視  
点で、これから時代に本  
当に役立つもの、売れるも

詳報 第3回建設

ランナーフォーラム

① 「ひば眠」を開発した際に  
ニーズ開発を設立。7年こま

との連携の重要性を強調し

初日に開かれた全体フォーラムでは、高齢者介護や農業、環境ビジネスなど幅広い分野の事業を7社が発表した。各社の取り組みは、それぞれの地域で欠くことのできない事業に発展して、スタッフが理解した」と説かれたが、8ヶ月後、経営が軌道に乗りだした。その理由について橋邊正之社長は「利用者のニーズにマッチした営業スタイルが収益化につながることを全員が理解した」と説いた。

■地域資源を有効利用して、設を具現化し、シャンプー日本三大美林の一つとし、や台所洗剤、化粧品などを知られる「青森ヒバ」を開発してきた。地域資源として有効利用す。○大見義紀社長は、社員一員に着目し、化粧品の丸となつた目標達成や、よろしくお客に喜ばれる商品開発分野に進出したのが大見海。発、医薬部外品の許可取得事工業(青森県大間町)だ。

① 「一では眠」を開発した際に、  
ヒバ開発を設立。97年には



「デイサービスセンターはまゆう」での七夕行事  
(第一建設)

域活性化、建設業における余剰労働力の解消を目指して2005年に事業着手。ざれに4万4000株を育成しと

い。  
瀬尾誠企画部長は「さす  
まな事業者と連携しなけ  
ば事業は進まなかつた」  
、新事業における異業種

当に役立つもの、売れるものは何かを的確に判断する  
ことが重要」と述べた。  
(日刊建設タイムズ社)

（第 一 連設）  
まな分野での活用を具体化  
してきた。  
1997年に緑化工法か  
ら実証実験を開始。現在ま  
でに環境緑化工法・環境十  
木工法・水環境工法として  
18の工法を提案している。  
原裕社長は「長期的な視  
点で、これから時代に本

■時代のニーズを判断  
日本建設技術（佐賀県唐津市）は、ガラス廃材を、多孔質の新素材「ミラクルソル」として再資源化し、環境緑化の保水材や、水産養殖の過才など、さまざまな

■日本には建設業が必要です